# 第６６期公益社団法人有隣厚生会事業報告

（令和元年４月１日～令和２年３月３１日）

当法人は、『医療、保健、福祉、教育その他より良い社会の形成に関する事業を総合的一体的に行い、地域社会の福祉の増進及び地域住民の生活向上に寄与する』ことを目的に平成２６年４月１日に公益社団法人として認定を受け、より公益性の高い法人として各事業を深い連携でつなぎ、一体の事業として展開してきました。不採算事業も、他法人が手掛けない事業であろうと、市民の要望を優先し、公益法人としての活動として積極的に取り組みました。

今期も、赤字脱出を目指し、各事業を展開しましたが、法人全体の収支は平成 27 年度までは利益相償で正味財産は 4 億 5 千万円を維持してきましたが、28 年度より△3 億 5 千万円、29 年度△3 億 8 千万円、30 年度は△2 億 1 千万円と赤字が続きました。そして令和元年度は法人全体で 1,981 万円の黒字となりました。但し、今回の決算において、財務体質の健全化の目的で、会計方針の変更を行い、賞与引当金と退職引当金については発生時計上することとし、引当金の戻入を行い、23,643 万円の収入増加効果（負債総額の減少）となり、また補助金の未収金合計 13,119 万円を令和 2 年度の入金時に計上することとしました。発生時会計に切り替えたことでの黒字ではありますが、他の要素も加味すると令和元年度においての今迄の会計方針であれば約 1 億円の赤字となります。昨年の半分以下の赤字幅に改善しましたが、2 月より発生した新型コロナウイルス感染症の拡大の影響は計り知れません。感染防止対策を各施設において適切に行い、万全の対応に心掛けましたが、患者の減少は入院、外来ともに大きく赤字拡大の一番の要因となっております。

今期、新理事長の方針により、『1 つの病院のごとくの各施設間の連携強化』を最重要課題として取り組み、富士小山病院、東部病院ともに入院患者数は富士病院からの患者受入の積極化で改善し、特に昨年度後半から各病院ともに入院患者の増加を見ました。新型コロナの影響がなければ、黒字化が目前のところまで進みました。訪問看護事業は『紹介を絶対断らない』を合言葉にスタッフ一同頑張り続け、過去最高の黒字となりました。その中で大改革を求められているのが 2 事業です。共立産婦人科は分娩数の減少に歯止めがかからず、抜本的な大改革が急がれます。グループホームにおいてもスタッフ不足を理由に入所人数が増やせず、処遇改善加算の見直しで１人 1 人の意欲と技能を上げて 9 名定員での運営を行わなければ存続できません。その意識をもって業務に取り組むよう指導しました。

地域包括ケアシステムの地域の推進役としての活動ですが①御殿場市医師会からの依頼で県の委託事業として在宅医療、介護連携情報システムの運用を地域で中心的に関わるシズケアかけはしの啓発活動。②看看連携会議を主宰し、地域のすべての病院と介護施設の看護師の長が一同に集まり、行政も巻き込んで地域包括システムに関わる連携を構築する会議の２つの事業に関し、成果が徐々に出始めたところ、新型コロナの影響で計画した講演会、会議が中止となりましたが、時期を見て再開します。

また、厚生労働省が医師不足の解消と看護師の技術向上を目指して強力に進めてい

る特定行為看護師養成事業に関して、富士病院が認定施設として指定を受け、平成29年10月からスタートし、今年度は合計10名の受講生でした。山梨大学、藤枝市立、富士宮市立、富士市立中央病院から見学の方が多数こられ、特定行為看護師の育成の推進に貢献しました。

新型インフルエンザ指定地方公共機関である富士病院をはじめ、各事業で感染拡大防止の対応をしました。その影響で入院、外来数が2月から減少傾向となり、4月以降更に減少が進んでおります。3密を避け、院内感染を絶対起こさない対策をすればするほど経営は厳しさを増しますが、クラスターを起こさない為にスタッフ一同忍耐強く対応を続けております。各施設共に感染防止策を実施、また御殿場市の新型コロナ対策本部会・医療の部[メンバー：御殿場市市長、保健所所長、医師会長，歯科医師会長等]を富士病院が施設代表として参加、富士病院会議室を使用してのスタートとなりました。

このような活動から行政、医師会からも一定の評価を頂き、運営的には今迄にも増して厳しい局面ですが、３病院・１診療所の各々の機能をフルに生かし、垣根を取り外し、一つの病院のごとくの連携を徹底させ、地域住民に各施設の機能を有効活用してもらい、稼働率のアップとグループ力を活用して運営し、健全運営を目指します。まだ財政面の課題が多くあり、法人の発展と安定運営を進めるため、今後は法人への寄付の募集を広く実施し、税額控除対象法人の資格取得を目指します。

公益事業の内訳

１．病院・診療所の運営
２．訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営
３．高齢者のグループホームの運営
４．一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー、講演活動等
５．医療人材の養成支援
６．病院、施設等における各種相談助言

１．病院・診療所の運営

御殿場市、小山町の地域を中心に、地域医療の確保とこれを通じて地域社会の発展に寄与することを目的として、二次救急医療、急性期医療、行政や住民の医療ニーズなどに対応した診療科の開設運営、その他これらに付随または関連する事業等を一体的に実施しました。

現在、急性期疾患に対応する富士病院、一般病床と療養型介護病棟を持つ富士小山病院、一般病床と包括ケア病床と（透析）センターの機能を持つ東部病院、地域唯一の産科である共立産婦人科を運営しております。

今期、理事長方針で、3病院の連携室師長を他2病院で毎週1日勤務する形態をとり、3病院の内容把握と連携の強化に大いに役立ちました。富士病院は今期も救急に力を入れましたが新型コロナの影響で、年間の救急車受入件数は昨年より19台減少し1169台となりました。入退院支援室を組織し、退院促進と受け入れ体制強化を図り、1月までは昨年を上回る対応ができていました。

富士小山病院は、小山町より 5,000 万の特例交付金を継続でき、小山町との関係がより深まり、連携が強固になっております。小山町唯一の一般病院としての期待も膨らんでおります。地域包括ケアシステム構築に貢献できるよう町の施策とタイアップした診療も心掛けました。

東部病院は少ない常勤医の中、地域包括ケア病床の利用を含め、入院患者数、外来患者数ともに微増、単価の上昇もあり黒字化しましたが、多額の返済が重く、更なる収益性の向上が望まれます。資金繰りは厳しい状況には変わりありません。
また強い連携を持つ医療法人沙羅　東富士病院とは、認知症患者を含めた精神科疾患の対応で連携を深めております。古くなった病院の移転問題も連携病院として協力して進めております。

健診事業については、御殿場市、小山町の住民健診(特定健診、乳がん、子宮ガン等)を中心に、最新の医療機器や技術力等病院の持っている機能をフルに生かした精度の高い検査を実施し、その結果データを分析し、市の医療計画への反映や住民の疾病予防と公衆衛生向上に寄与しました。健診事業についても富士病院が中心となり、他病院の行っている事業にも積極的に関わり、全体として収益を上げていく所存です。今期、放射線科医のダブルチェック機能を増強、健診ソフトの更新の検討を進めました。また各種キャンペーンの他、腎不全予防のためのＣＫＤ啓発活動は行政にバトンをゆだね、協力体制で取り組み、医療機関、住民の健康意識の向上のため活動も積極的に取組みました。

そして新コロナ対策は 3 病院と産婦人科が行政、医師会と連携して、地域の中心的役割を担って、感染防止の対策を進めました。

富士病院の運営

新型インフルエンザ指定地方公共機関である当院は、2 月に御殿場保健所より偽陽性の患者の診断（帰国者・接触者外来）と偽陽性患者の入院の受入の依頼を受け、感染外来を開始、感染対策の体制構築に邁進しました。感染対策委員メンバーを中心に、新任の感染内科専門医の指導のもと、日々刻々と広がる諸問題を解決しながら、院内感染防止と一般診療の継続のバランスをとることは困難を極め、また 4 月には ICU 仕様となっている部屋を 6 床感染病室（個室化）に改修し、PCR 検査の結果が出るまで（臨床上の診断で陰性と出ても安全の為、隔離するケース有:陽性者は他院に転送する）入院対応を行っております。御殿場市・小山町においては唯一の感染対応施設として今まで 130 例以上の PCR 検査を実施し、今のところ陽性者は 0 ですが、陽性者と同じ感染対応をしなければならず、数々の制限の中、診療を継続しております。外来は本年 2 月から減少、1 月 530 人/1 日→2 月 460 人→3 月 466 人→4 月には 434 人と 18%減少、入院は新型コロナ対策で感染病室に専属の人員を配置、外来も受け付けの問診、検温測定、感染外来の配置により、病棟スタッフが極端に不足、救急の制限もせざるを得ないことなどが複合的に重なり、1 日平均入院患者数 2 月 131 人（平均）→3 月 123 人→4 月 120 人、また新入院数が 1 月 255 人→4 月には 215 人と激減、診療報酬請求額が入院外来トータルで 1 月 388,767 千円→4 月には 339,686 千円と 13%以上ダウンしております。

新型コロナ問題が始まるまでは救急患者等も増加傾向にありましたが、通期では、救急患者の受入件数は、年間 1,146 件（昨年 1,168 件）でした。

また、沼津地区の内科２次救急の支援（広域救急）は年間 12 日担当し、救急車 31 台［昨年度 130 台受入］を受入れました。内科以外にも外科は二次救急医療を引き続き週２日受け持ち、第２、第５土日に加え、富士小山病院の第一土日の外科２次を担当しております。循環器疾患は24時間365日緊急カテに対応しました。小児医療も、センターからの入院依頼を受け、緊急透析をはじめ、吐下血などの対応もできる範囲で実施しました。また緊急内視鏡についても看護スタッフの待機を設置し、検査、放射線、手術室、ＭＥも夜間対応可能な体制で臨みました。放射線技師・臨床工学技士・臨床検査技師については富士病院より富士小山病院、東部病院へ派遣し、特に放射線技師については、待機も支援しております。またリハビリスタッフは東部病院への派遣も実施し、包括ケア病床におけるスタッフ不足を補いました。

急性期医療以外にも地域で必要とされている医療の継続と診療内容の充実、診断の精度を上げるための医療機器等の整備など診療レベルの向上に努めました。

地域であふれてしまった夜間透析患者の受入を開始し、10 名の患者の社会復帰に貢献しております

健診事業も全体的に増加し、出張健診も新たな企業が加わりました。

連携システムの変更により、患者の他院への転院は富士小山病院、東部病院ともに以前に比してスムーズになっており、今後自宅への退院が決定した方が自動的に東部病院に移動できるシステムの運用で更に移動が便利になっていくはずです。

一日平均患者数 127 人（昨年 128 人）、平均在院日数 15.3 日（昨年 15.4 日※白）。平均入院日当点は 5,676 点（昨年は 5,408 点）の結果となりました。

医業収入については、外来収入が 1,789,743 千円（昨年比 4.0%減：昨年度実績 1,865,171 千円）と減少、入院収入については、2,695,500 千円（昨年比 4.3%増加：昨年度実績　2,584,153 千円）と増加しました。保健予防活動は、205,315 千円（昨年比 1.5%増：昨年度実績　202,372 千円）となりました。医業収益総額では　4,954,040 千円（昨年比 1.2%増加：昨年 4,894,457 千円）となり 59,58 千円の増収となりました。

医業費用については、給与費 2,545,296 千円（昨年比 0.9%減少：昨年度実績 2,567,542 千円）となりました。材料費は 1,354,548 千円（昨年比 1.4%減：昨年度実績 1,373760 千円）、委託費は 256,628 千円（昨年比 0.3%微増：昨年度実績 255,890 千円）経費は 668,380 千円（昨年比 1.7%減：昨年度実績 680,101 千円）でした。保険診療の増加に伴う材料費の増加もありますが、経費削減効果で支出を抑えることができました。人件費も電子カルテ導入移行期の一時的な事務系の増加も落ち着き、全体的に支出を抑えました。要望機器については物品購入委員会による財務状況を考慮した適切な採択と業者への交渉を徹底的に行い、収益改善に繋げました。減価償却費は 82,561 千円（予算比 3.2%減：昨年度実績 85,314 千円）でした。

今期、結果として△19,335 千円［昨年△125,520 千円］の経常損失となり、改善はしたものの発生主義に切り替えたものであり、旧会計方針では約 8,942 万円

の赤字となります。赤字額は依然として大きく、令和 2 年には何としても収支トントンを目指します。それには①入院の長期化をなくす（退院促進）②満床による救急、紹介のお断りをなくす。この 2 点につきます。ＩＣＵ設備の利用と多職種共同指導を掲げての令和元年度でしたが、新型コロナとの戦いで、黒字化は困難を極めております。行政からの支援なしでは黒字化は不可能で、このままでは、近い将来運営が行き詰まることは明白です。公益活動に邁進し、地域貢献を果たし、急性期病院の運営を担当して、運営していきますが、危機的状況に陥っている事実を行政の方には是非ご理解頂き、今後の対応を協同で検討していけたらと考える所存です。

富士小山病院の運営

令和元年度は当初事業計画におきまして、今後増加が見込まれる慢性期医療・介護ニーズに対応した恒久的かつ継続的な運営が可能な、介護医療院への転換準備の年度として位置付けております。

このような中、かねてより課題となっておりましたスプリンクラーを行政のスプリンクラー等施設整備事業を活用し法令で規定された設置すべき箇所すべてに設置いたしました。

（消防法施行令等により令和 7 年 6 月 30 日までに設置義務）

収益の増加につきましては、人口減少及び 65 歳以上の高齢者が全町民の 30%を占めていること、さらには、75 歳以上（2,763 名）が 65 歳以上 75 歳未満（2,694 名）より多いこと等、当地が介護需要の高い地域であることを反映しています。

費用の増加につきましては、主なものとして職員給与の増加であります。

富士小山病院特別会計経常収益の内、入院収入（一般病棟）は、入院患者数が 1 日平均 23.6 人となり、前年度より 3.7 人の増となりました。これは、本年度後半より医師 1 名の採用及び介護需要の増加に伴う医療度の高い介護療養病棟の待機者を、一般病棟に受入れたことによるもので、結果、前年度より 3,930 万円余の増収となりました。

外来収入は、外来患者数が 1 日当たり 130 人で前年度より 11 人減少したこと及び、人口減少や新型コロナウィルスの影響に起因しているものと考えられ、前年比 2,410 万円余の減収となっております。

介護保険収益（療養病棟入院収入）は、前年度に引き続き当地の高齢化や老老介護、施設入所困難な医療度の高い介護者等の増加により、1 日平均 58.7 人と前年度より 1 人増加しほぼ満床状態となっております。また、平均介護度も 4.5 で前年度より 0.2 増加し、 前年比 1,090 万円余の増収となりました。

その他医業収益のうち主なものとしては、小山町公的病院等運営費補助金 5,000 万円の会計処理を現金主義にて処理に変更の為、当期未計上につき前年比 5,000 万円余の減収となりました。

経常費用は、各科目においておおむね前年度並みでしたが、人件費のうち医師 1 名及び看護師等その他職員の採用等により給与費が 3,480 万円余増加しましたが、

賞与引当金及び退職給与引当金を税法上の基準に合わせた現金発生時の処理に変更したことにより、合計で 10,900 万円余の取り崩しを行い、給与費は前年比 6,200 万円余の減少となりました。

以上により、経常費用は、前年比 7,400 万円余増加し、当期経常増減額は、3,570 万円余の黒字となりました。

職員の確保につきましては、医師 1 名、看護師 3 名、看護助手 6 名、その他職員 4 名を採用しました。退職者は、看護師 5 名、看護助手 4 名、その他職員 1 名です。

新卒者の採用が困難を極めるなか前年度に引き続き、看護学校進学希望者への支援・助成、高校訪問等積極的な募集活動を行いました。これらの成果として、御殿場看護学校 1 名（看護師）高校新卒者 2 名（看護助手）の採用を内定しました。

職場環境の整備を図る観点から、前年度継続事業として職員の腰痛予防のために、既存ベッド 20 台を電動ベッドに入れ替えました。

なお、正味財産増減計算書における当期 3,570 万円余の黒字計上となっておりますが、スプリンクラー工事費 5,660 万円余及びカンファレンスルーム・更衣室工事費 2,940 万円余計 8,600 万円余は、公益法人会計では費用として計上することができません。

したがいまして、実質当期利益 3,570 万円余－工事費計 8,600 万円余＝△5,020 万円余の減少となります。

東部病院の運営

東部病院は、前年度に引き続き透析医療を中心に急性期医療、地域包括病床への取り組みを進めてまいりました。令和元年度の医業収益は、１，２５８，０３１千円（前年比１．８７％増　前年１，２３４，８５３千円）で、当期利益は４０，６３２千円（前年比４５，３５４千円増）となりました。

入院の状況ですが、延べ患者数１０，７８３人（前年比＋５５人）とほぼ同数、一日平均患者数３１人（昨年３０．６人）、平均在院日数１５．４日（前年１４．１日）となりました。新入院患者数は４６３人で前年並みの入院数を受け入れました。入院収入は４０３，３０１千円（前年比１４％増　前年実績３５３，４８０千円）となり、透析シャント件数の増加が収益増加に繋がりました。他施設との連携を強化し、５５％増の４６７件のシャント実績を残しました。ただし、施設基準による年間緊急入院患者数２００名以上受け入れ条件のところ、救急搬送車の受け入れが難渋し２１８名となりました。緊急シャント手術入院が増加したため２００名は上回ったものの、救急センターからの入院受入れも含め今後の課題です。また、地域包括病床に関しては、昨年１０月に内科常勤医が入職したものの、病床稼働率を上げることができず、リハビリを中心とした整形外科入院が多くを占めるかたちとなりました。

透析医療については、２７床で外来延べ患者数１８，６４９人（前年比＋１，７０５人）、収益は、５６４，７８７千円（前年実績５６１，９５２千円：収入構成比７３％）でした。現在透析棟増改築工事中、８月末完成予定となっており、増床に伴い更なる収益の増加を目指していきます。外来全体の延べ患者数は、３９，１１１人（前年比－１９８人）、一日平均患者数は１２４人（前年比＋１人）で、ほぼ昨年並みの患者数を確保できました。外来診療収入については、７７２，８５５千円（前年比４．６％微増：昨年実績７３８，７２７千円）となりました。本年度も順天堂静岡病院消化器内科非常勤医の派遣が継続され、保険診療、健診による上部内視鏡検査を行い、前年並みの実施件数でした。

健診事業は、一般企業健診４，２２３人、人間ドック１４１人で、それぞれ前年を上回り、新規企業数も５９社増え、宣伝活動の成果が出たかたちとなりました。その他、特定健診、乳がん検診等の御殿場市の健診事業についても、実施日、時間等を極力制限せず受診できるよう調整してまいりました。

その他、救急医療施設運営費補助金（救急患者退院コーディネーター事業）の交付決定を受けました。経費削減として全館ＬＥＤ照明への切り替えにより、約１６％の電力料金の削減に繋がりました。本年度は、医療従事者としての基礎固めと、富士病院、小山病院との連携を密にし、役割分担を明確にしていく必要があると考えております。

共立産婦人科医院の運営

令和元年度の医業収入は 260,055 千円（昨年比 1.3%増：昨年度実績 256,694 千円）で、当期損益は△52,526 千円（昨年比 6.3%減少：昨年度実績△62,497 千円）となりました。

分娩件数については、少子化の影響で地域の出生数も減少傾向もありますが、減少は止まらず、今年度はお産 198 件（昨年 195 件）、帝王切開 37 件（昨年 50 件）の合計が 235 件（昨年 245 件）となりました。外来数については、延患者数 13,689 人（前年 10,881 人）一日平均患者数 46 人（前年 37.0 人）、子宮がん検診については 2,801 人（昨年 2,989 件）となりました。

平成 29 年度より有隣厚生会に本格的に移行した当院は、地域で唯一のお産のできる産婦人科として運営しておりますが、最大の課題は赤字体質からの脱却です。

法人全体に対する銀行の指導監督もありますが、特に改善を見ない共立産婦人科への指摘は厳しく、本格的な改善計画を大学のアドバイスも頂きながらすすめていく必要を強く実感しております。会計方針を発生主義にしたため、医師会を通じて御殿場市より産科医師確保事業助成金として今期は 2,576 万円の補助金はあるものの、収入の 20%以上の赤字を解消するには抜本的な大改革は必要です。年間 350 人のお産とＡＵＳ，婦人科診療、健診事業等各事業において増額計画を早急に作る必要があり、本部会議として刷新会議を推し進める所存ですので、院長はじめ先生方、スタッフの意識の変化を期待します。

又、市からの委託を受けて開始した産後ケア健診事業も御殿場市・小山町の中心として関わり、産後の精神的フォローを含めて、対応を開始しました。

県下を見ても病院組織でない産科クリニックで院長がオーナーでない施設は当院以外に存在せず、自分の運営する施設として、収益を上げることにスタッフ一丸となり取り組む必要があります。それには、まずスタッフの教育、若い人の心を動かすホームページ作成、行き届いた接遇と体外受精を見据えた人工授精の取組等

“患者様に優しい産婦人科”を目指し、サービスと診療の向上を成し遂げ、市民に信頼される産婦人科となるように生まれ変わる必要があります。

1-1　一般外来

法人全体の外来患者数は昨年とほぼ同じ患者様を診察しました。富士病院の外来については、診療精度の向上を目指し、各種検査の機器の更新を積極的に行い、また、コメディカルの技術向上を推進した結果、診断・治療能力は着実に進みました。当会では各種検査結果は当日治療に反映できるよう努めており、結果、迅速な診断を可能にしております。富士病院と富士小山病院は電子カルテを導入し、待ち時間は改善、患者様のスムーズな受診に繋がりました。しかし、患者様増加の対応に追われる場面もあり、予約センターなど更なるシステムの検討が現在なされております。富士小山は患者数が減少、・東部病院は患者数横ばいでしたが、専門外来など特色を持った外来は定着してきており、他医院からの紹介も増加傾向にあります。

【令和元年度実績】(　　) は昨年度実績

一般外来数

年間延受診者数 264,007 人（昨年 262、888 人）

富士病院 169,543 人（昨年 171,344 人）、富士小山病院 38,199 人（昨年 41,354 人）、東部病院 39,112 人（昨年 39,309 人）、共立産婦人科 13,669 人（昨年 10,881 人）でした

1 日外来平均患者数

富士病院 576.7 人（584.8 人）、富士小山病院 130 人（141 人）、東部病院 124 人（123 人）　共立産婦人科 46 人（37 人）　合計 877 人（885 人）

1- 2 健診事業

一般健診、人間ドック、特定健診、婦人科健診、小児健診など幅広く当院の診療体制を活用した健診が行われた。

【令和元年度実績】(　　) は昨年度実績

特定健診 2,304 人（2,497 人）、

マンモグラフィー検診 2,127 人（2,924 人）、

子宮ガン検診 4,041 人（4,119 人）

一般企業健診企業数 1,009 人（1,022 人）

一般企業　延べ健診数 18,721 人（15,822 人）

人間ドック 969 人（922 人）

妊婦検診 4,334 人（5,013 人）

乳児健診　278 人　（200 人）

産婦健康診査（産後ケア）371 人（58 人）

1- 3 救急医療

富士病院では沼津・三島・裾野の内科広域救急担当を月 2 回実施した。

救急車受入件数は　富士病院　1,149 人(1168 人)、富士小山病院 204 人(225 人)、東部病院　113 人（125）合計 1,466 台（1,518 台）

【令和元年度実績】(　　) は昨年度実績

（救急センターからの転送・他地域・病院からの搬送も含む）

・疾患別 3 病院　　合計

| | | | |
|---|---|---|---|
| 心疾患 | 221 人（248 人） | 呼吸器疾患 | 246 人（207 人） |
| 消化器系疾患 | 212 人（153 人） | 脳血管疾患 | 92 人（145 人） |
| 小児救急 | 60 人（75 人） | 外傷系 | 76 人（50 人） |
| 中毒 | 23 人（19 人） | 不明 | 36 人（59 人） |
| その他 | 500 人（562 人） | 合計 1,466 人（1.518 人） | |

広域救急内科 31 件[130 件]含む

1-4　在宅訪問診療

地域医療構想と地域包括ケアシステムの推進の中でで、高齢者の方々が、安心して疾患に対応した医療・介護の提供が受けられるよう支援し、加えて見取りの問題も包括的に支援する仕組みを徐々に構築するように進めました。連携している施設と連絡を密に取りながら、在宅・施設でその人らしい生き方で暮らせるよう、訪問看護ステーションとも連携して支援してきました。たとえば富士病院では施設入所者の身体情報をあらかじめ連絡をもらい、万一の対応を当直医に連絡しており、急変時の受け入れをスムーズにしました。富士病院は、在宅療養支援病院の指定を受けていきたいと考えており、シズケア＊かけはしモデル事業へ地域の代表として参加、富士病院と東部病院と神山復生病院が中心になって県の医師会、御殿場市、小山町の行政も交え、毎月協議を重ね、森町病院にも施設研修会を開催、普及のための基礎固めを実施しました。

【令和元年度実績】(　　) は昨年度実績

訪問施設数 6 施設（8 施設）

訪問診療回数 157 回(222 回)

施設訪問件数：看護師同行 2,738 件（2,826 件）医師のみ 1,376 件（1,556 件）

1-5　医療協力・派遣・ボランティア

当法人は他の病院・医院や行政・学校・企業からの医療協力・医師や看護師、技師の派遣・ボランティア派遣の要請などを可能な限り受け、地域医療の向上と各種ボランティア活動を通じて助け合いの精神の普及に努めました。

【令和元年度実績】(　　) は昨年度実績

御殿場救急センターへの医師派遣 50 日（75 日）

御殿場救急センターへのレントゲン技師派遣 170 日（207 日）

地域医療機関・施設への定期スタッフ派遣医師 150 件（156 件)、放射線技師 48 件（49 件）

予防接種 20 件（20 件)、校医校 13 校（13 校）, 出動 17 回（17 回）

リレーフォーライフ等参加 2 名、募金 6025 円(110,000 円)、

地域防災支援看護師派遣 1 名（6 名)、ＪＭＡＴ登録 1 チーム（1 チーム）

地域災害コーデイネーター医師１名（医師１名）

1-6　オープンシステム事業

地域に開かれた病院として、オープンシステムをいち早く導入し、地域全体の医療の質の向上に努めている。近隣の診療所・病院の医師が、当院医療機器を共同で利用し、当院専門医の診断などを付けてお返しする等積極的に取り組む。共同利用の医療機器は内視鏡・カテーテル検査・MRI・CT・ホルター心電図等広範囲であり、他病院・診療所における不足の部分を当会でカバーすることにより、地域で効率よく安全で質の高い医療を展開できることに貢献しています。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

| | | | |
|---|---|---|---|
| ＣＴ依頼施設数 | 26 件（26 件） | ＣＴ件数 | 454 件(512 件) |
| ＭＲＩ依頼施設数 | 16 件（18 件） | ＭＲＩ件数 | 745 件（559 件） |
| エコー依頼施設数 | 13 件（13 件） | エコー件数 | 99 件　(98 件) |
| 大腸内視鏡検査依頼施設数 | 4 件（3 件） | 大腸内視鏡件数 | 12 件（11 件） |
| 胃依頼施設数 | 4 件（4 件） | 胃件数 | 16 件（18 件） |
| 冠動脈依頼施設数 | 7 件（8 件） | 冠動脈造影件数 | 39 件（31 件） |
| その他依頼施設数 | 11 件（11 件） | その他件数 | 62 件（105 件） |
| 依頼施設数合計 | 79 件（36 件） | 依頼件数 | 1,370 件（1,260 件） |

1-7　専門領域

① 循環器医療

日本循環器学会の循環器専門医研修施設として、２４時間３６５日体制で循環器科医師を配置し、緊急の心筋梗塞等にいつでもカテーテル治療の対応ができる体制を整えてきました。また、心臓バイパス術、弁置換術など心臓センターとしての機能を充実させ、循内と心外がチームとして合同で地域の心疾患をカバーする医療を提供しました。平成７年に“地域住民の心臓をわれわれで守る”という強い理念でスタートして 24 年以上経ち、最高水準の循環器治療ができる病院としての地位を確立しつつあります。またアブレーション治療［経皮的心筋焼灼術］の中でも発作性及び持続性心房細胞に対する治療を中心に３Ｄマッピングシステムを用いて成果を出しております。また第２カテ室の血管連続撮影装置を更新し、鮮明な画像で、救急が重なったときでも対応できる環境となりました。スタッフ教育の問題で、並行稼働が難しい面は改善していく。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

急性心筋梗塞 87 件

心筋梗塞救命率 100％（100％）

カテーテル検査 746 件（825 件）経皮的冠動脈形成術 372 件（379 件）

経皮的血管形成術（ＰＴＡ）98 件（56 件）

心筋焼灼術[アブレーション]100 件（78 件）内心房細動 74 件

ペースメーカー埋め込み術 34 件（45 件）

冠動脈バイパス術等開胸術 19 件（19 件）

腹部大動脈手術等 2 件（8 件）下肢静脈 16 件（13 件）

シャント手術 476 件（322 件）

②小児科

当会の富士病院は、この地域で唯一小児科の入院ができる施設である。医師の待機は２４時間３６５日体制で急病患者に対応した。平成 29 年度は東海大学の派遣で１名の常勤医と若い小児科医師２名が常勤で加わり、小児医療の充実に繋がりました。センターからの救急受け入れも改善し、地域の小児医療の砦としてさらに発展を目指します。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

緊急入院件 94 例（117 例）、各種予防件数 3,359 件（3,317 件）

乳幼児健診 203 件（200 件）、脳波検査 43 件（46 件）

③呼吸器内科

当地域は呼吸器疾患の患者が多く、また、専門的な診療ができる病院は、唯一富士病院だけである。昨年度呼吸器内科常勤医師が退職し、昭和大学から非常勤医師の派遣で平成 29 年度は乗り切りました。引き続き常勤医師の雇用に努めます。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

在宅酸素療法患者数　93 名（109 名）

無呼吸症候群治療患者実数 45 名（1249 名）

④糖尿病内科

日本糖尿病学会認定教育施設として、チームで糖尿病指導に当たり、その管理に傾注しました。また、各種糖尿病に関するイベントを開催し、富士病院の患者会である“ごてんばふじの会”を中心に活発に啓発活動を行いました。スタッフ育成については、糖尿病療養指導士を育て、スタッフ一人ひとりの技術の向上にも力を注ぎました。患者様の教育入院では療養指導チームによる療養指導と並行して、糖尿病の成因、病態、合併症などの全身精査を行い、患者様の病態に合わせた最適な治療を行いました。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

糖尿病受診患者延数 7,451 名（8,331 名）

⑤消化器内科・消化器外科・肛門科

当法人では、消化器全般の疾患を正確な診断をもとに診療、治療方針を決定、十分な説明をもとに、患者様にとってより良いと思われる診療を心掛けてきました。

最新の６４列 CT、1.5 テスラ MRI、内視鏡、超音波機器、各種血液検査機器これらを操作する熟練したコメディカルが精度の高いデータにより手術方針が決定し、救急医療にも繋がっております。

内視鏡を中心として癌の早期発見に努め、手術も積極的に実施し、症例は年々増加しております。また、肛門科におけるジオン注射など特殊な手技も積極的に取り込み実施しました。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

上部内視鏡検査 3,158 件（3,324 件）

大腸内視鏡検査　1,207 件（1,362 件）

ポリープ切除術 141 件（201 件）

ＥＲＣＰ（内視鏡的逆行性膵短観胆管造影法）53 件（76 件）

ＰＥＧ（胃瘻造設術）11 件（5 件）
ＥＳＤ（切開剥離）8 件（5 件）
ＥＭＲ（内視鏡的粘膜切除術）237 件（213 件）
腹腔鏡下胆嚢摘出術 18 件（20 件）
結腸癌切除術 20 件（34 件）うち腹腔鏡補助下手術 3 件（4 件）
直腸癌手術 9 件（15 件）うち腹腔鏡補助下手術 4 件（6 件）
胃癌切除術 8 件（7 件）うち腹腔鏡補助下手術 1 件（1 件）
イレウス・小腸切除 8 件（5 件）
虫垂切除 18 件（10 件）うち腹腔鏡補助下手術 10 件（3 件）
鼠径ヘルニア修復術 80 件（57 件）その他 30 件（15 件）
消化器系手術合計 191 件（163 件）
痔核手術　24 件（25 件）、痔ろう手術 15 件（17 件）

⑥乳腺外科

検診から診察、検査、手術、化学療法、リハビリ、患者会による心のケアに至るまで一貫した診療体制で、乳がん撲滅のために検診・診療・相談指導・啓蒙活動などを実施した。またトモシンセシス対応マンモグラフィーは精度の高い画像が得られ、乳がんの早期発見に大変役立ちました。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

胸筋温存乳房切除術 20 件（32 件）　　乳腺腫瘤摘出術 18 件（14 件）
乳房部分切除 4 件（11 件）
その他 11 件(11 件)　　マンモグラフィー撮影件数 2,995 件（3111 件）
マンモトーム 55 件（102 件）

⑦泌尿器科

当地域の泌尿器科で入院ができる施設は、唯一当院だけです。癌手術症例も多く、化学療法患者・結石破砕治療患者も多い。また、新規導入したレーザー破砕装置と軟性鏡による治療は患者様の負担を軽減し、治療成果も大きく、地域唯一の治療として注目を集めております。

令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

膀胱腫瘍摘出術 22 件（26 件）
膀胱経尿道的切除術 51 件（55 件）
前立腺肥大切除術 30 件（13 件）
その他 91 件、
手術件数 194 件（182 件）
うち全麻件数 79 件（61 件）
結石破砕 57 件（53 件）

⑧眼科

最新の検査機器を導入し、広範囲の眼科診断治療を実施しました。OCT による視神経・神経線維層解析が可能になり、緑内障の診断・治療評価の精度向上、パターンスキャニングレーザーの導入により、網膜光凝固術に伴う苦痛が大幅

に軽減され、患者様の評判は大変高く、利用が増加しました。また、手術も白内障意外に緑内障に対してのレーザー・濾過手術や眼底疾患に対して硝子体注入療法や網膜光凝固術等を行った。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

白内障手術　394 件（498 件）　　緑内障手術 15 件（18 件）

網膜光凝固術 9 件（39 件）　　硝子体注入・吸引術 5 件（13 件）

多焦点眼内レンズ手術（先進医療）2 件（1 件）その他 31 件

⑨人工透析

御殿場市・小山町及び裾野市において当法人は唯一腎臓内科専門医による導入管理から急性期の合併症に対応。さらには外来透析患者の急変（骨折・心疾患・消化器系・脳疾患等）に緊急透析が出来る体制を２４時間３６５日整えている。3 病院でオンライン透析を開始し、また東部病院においては透析室の増床工事を開始し、令和 2 年８月末完成予定です。東部の夜間透析が満床となったため、地域の働く方々の透析患者様のために、富士病院にて夜間透析を開始しました。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

入院透析 24（27 人）延べ数 4,232 回（3,858 回）外来透析 212 人（211 人）

延べ透析回数 32,848 回（31,332 回）

内夜間透析　36 人（27 人）　　※人数は３月３１日現在

透析導入件数　53 人（54 人）

⑩ 整形外科

1.5 テスラＭＲＩと６４列ＣＴを活用してできるだけ早期に正確な診断･治療を開始し、リハビリテーションに繋げて、早期機能回復を目指した診療を実施しました。脊椎脊髄外科指導医のもと、手術症例が増加し、新しくなった手術室を活用しております。人工膝関節置換術、関節鏡下検査等も積極的に行い、加えてモザイクプラスティーを使用した骨移植術にも取り組み、骨再生に効果的な低強度パルス超音波療法の採用など新技術も積極的に取り入れた治療を行いました。1 名の常勤医師の増加があり､症例は増加傾向となる。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

人工膝関節置換術 1 件（5 件）

股関節人工骨頭手術 7 件（7 件）

大腿部骨折 18 件（22 件）

関節鏡〔膝･肘）検査 3 件（19 件）

その他 114 件（7 件）

手術件数 133 件（152 件）　　うち全麻件数 87 件（101 件）

⑪　脳神経外科

頭痛・めまい・痺れ・物忘れ外来など徐々に地域に浸透し、外来患者も増加、国保脳ドック検診も増え、患者の脳の管理を担いました。入院中の方、外来通院中の方も合併症で脳疾患を併発市重篤化するケースも多く、高齢者の管理も含め、健診から重症まで幅広く診療しました。また手術についても、徐々にで

すが増加傾向にあります。30 年度購入した電子顕微鏡を使った手術の増加を期待しております。さらに、ＯＴを３名体制として、脳血管リハビリＩを取得目指す

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

脳血管外科手術 23 件（11 件）うち全麻件数　8 件

⑩ 皮膚科

アトピー性皮膚炎から皮膚潰瘍、悪性新生物の早期発見まで広範囲の治療・手術を担当しました。外来患者も年々増加し地域の人気も高く、更に増加を期待しております。また地域老人施設の疥癬対応指導・診察についても保健所と連携しながら対応しました。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

皮膚皮下腫瘍摘出術（露出部）６９例

皮膚皮下腫瘍摘出術（露出部以外）５４例

皮膚切開術２９例皮膚悪性腫瘍切除術４例

⑪ 麻酔科・ペインクリニック

常勤医師２名と非常勤医師１名の体制で各種手術に対応しました。

また麻酔科指導医による本格的なペイン外来も、赤外線レーザー治療器を活用して、難治性疼痛の緩和に努めました。

引き続き、静岡県東部地域で研修施設がなく、困っている救急救命士のビデオ口頭鏡及び挿管の研修を今年度も継続しました。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

腰部硬膜外ブロック７５例

星状神経節ブロック９６例

⑫ 婦人科

子宮ガン検診が平成 27 年 4 月から誕生月検査となり、スタッフの負担は緩和されましたが、婦人科医が不足し、共立産婦人科からの派遣を受けて今期も週 2 日の診療を継続しました。

婦人科のドック、健診にも力を入れ、がんの予防活動にも積極的に貢献しています。

1-8　療養病棟

富士小山病院療養病床６０床利用率 96.6%（昨年 96.6%）今期も生活困難者・生活保護受給者の受入を積極的に行った。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

月平均入院患者数 59 人（５８人）

内生保患者　　3 人（3 人）

介護度 4.5（昨年は 4.4）

1-9　医療従事者による調査研究・学会発表

臨床より得られた研究課題について、研究し、得られた成果を学会・研究会で発表し、医学の発展に貢献した。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

医師 15 件（19 件）　看護師 5 件（6 件）　技師系 5 件（5 件）

リハビリ 3 件（1 件）、栄養士、社会福祉士、他 2 件（4 件）

1-10 一般入院

富士病院の入院患者数は順調に伸び、さらに昨年２月より超急性期、急性期、退院支援病棟と病床を区分けし、病棟管理師長を配置して救急受け入れ体制を確保すべく、ベッドコントロールを効率よくまわしていくことで救急患者、紹介患者の受け入れ体制の強化を図り、取り扱い患者数の増加を図りました。しかし、機能分担が医師不足などの影響で東部病院、小山病院とも取扱い患者数が少ない状況が継続し、経営への影響が大きかった。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

入院延べ患者数

1 日平均取扱患者数　185 人（178 人）

富士病院　127　人（128 人）　富士小山病院　23.6 人（20 人）

東部病院　31　人（31 人）　共立産婦人科　1.7 人（1.7 人）

平均在院日数

富士病院　16　日（15.4 日）　富士小山病院 14　日（14 日）

東部病院　14 日（14 日）　共立産婦人科 5.0　日（5.6 日）

年間新入院件数　4,904 人（4,413 人）

富士病院　3,139 人（3,242 人）　富士小山病院 652 人（637 人）

東部病院　463 人（457 人）　共立産婦人科 326 人（348 人）

２．訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営

「その人らしさを大切にする看護」を理念とし、家族と共にその人らしく在宅で過ごしたいという願いに寄り添い、幅広い訪問看護活動を行っています。また、御殿場、小山地区は、開業医、勤務医が非常に少ない為、医療情報を地域に伝えるという役目も担ってきました。

富士病院の訪問診療に同行し、利用者、家族、主治医とのパイプ役として在宅医療を支えています。在宅における訪問看護の必要性は高く、小児から高齢者まで多種多様な疾患や医療処置に 24 時間 365 日対応しています。

利用者数は、平成 30 年度の利用者数は、月平均 107.7 名、訪問件数は 6,945 件で令和 1 年度の利用者数は、月平均 127 名、訪問件数は 8,183 件で増加しています。施設数の増加や訪問看護ステーションの新設など地域移行推進の中、今後も、家族の介護負担を考慮し、その人らしく在宅生活を継続できるよう支援を続けることが重要です。同時に医師を含む多職種との連携を円滑に行い、地域の方々の要望に応えられるような体制作りを継続していきます。

在宅でのリハビリテーションの必要性も更に増加し、理学療法士は、各疾患に応じ、

機能訓練、日常生活動作、及び指導、呼吸理学療法等多岐に渡る機能訓練強化、訪問リハビリテーションを積極的に取り組みました。

【令和１年度実績】

（地域連携活動）

| | | |
|---|---|---|
| 利用者数 | : | 127 人（107 人） |
| 指示書依頼医療機関 | : | 37 施設（30 施設） |
| 訪問年間回数 | : | 8,183 件（6,945 件） |
| 夜間休日相談回数 | : | 104 件（100 件） |
| 夜間休日出動回数 | : | 244 件（106 件） |
| サービス担当者会議出席 | : | 91 件（81 件） |

静岡県訪問看護ステーション協議会主催の訪問看護電話相談

御殿場看護学校へ講師派遣（2 人）

訪問看護実習生の受け入れ（御殿場看護学校）13 名

医療機関の看護師等研修（2 人）

グループホームごてんば健康チェック（１回/週）

ソーシャルインクルー（障害者グループホーム）健康チェック（2 回/月）

併設の居宅介護支援事業所では、介護支援専門員（訪問看護師と兼務）が利用者の要望に基づいてケアプラン作成に当り、サービスの調整を行いました。

居宅介護支援

ケアプラン作成件数　:　10 件

介護支援専門員（3 人）在籍し月１回の介護支援専門員連絡協議会に出席

御殿場市介護認定委員（１人）

御殿場市高齢者地域ケア会議委員（1 名）

介護認定調査員（２人）認定調査施行

介護支援専門員在宅医療研修（１人）

３．高齢者のグループホームの運営

″グループホームごてんば”は、開所から１８年になります。認知症の入居者、ひとりひとりに合わせた介護をするために、スタッフ間で話合いを重ねながら柔軟に対応しています。

年間で入居者は１名です。入退院は２０日間の入院が一件です。

年間の要介護度の平均が４．６となり重度化が進んでいます。入居時より、認知症状が非常に重い方が多く、ほとんどの方が全介助を要するため職員の業務負担が増えています。

職員不足は改善されず、職員募集をしても、人が集まらず、入職してもすぐに退職してしまいます。職員の定着を目指して働きやすい環境作りに取り組んでいます。

重度化しても、家庭的な環境の中で日常生活の援助を行い、認知症の進行を穏やかにし、訪問看護ステーションと連携して健康管理を行いながら、明るく楽しい生活を送って頂いています。

地域密着型サービス事業所として、運営推進会議を年間６回開催し、様々なご意

見を参考にしながらサービスの質の向上を行っています。運営推進会議を利用して、地域との連携が円滑に行えるよう活動しました。

【令和元年度実績】

研修研究活動

職員の研修においては、内部研修を行い職員のキャリアアップを行いました。

地域貢献活動として

グループホームごてんば便りを発行し、家族の方々、地域・連携施設などに配布して活動報告を行いました。

地域の方からボランティアの参加希望があり、積極的に受け入れ福祉の心を共有して頂きました。

近隣の御殿場聖マリア幼稚園との交流を通じて、幼児から歌やお花などのプレゼントを頂き、入居者の笑顔が印象的でした。

介護についての疑問・相談を無料で受け付け対応しました。

認知症になっても、安心して暮らせる地域を作る啓発イベントのＲＵＮ ＴＯＭＯ－ＲＲＯＷ（ラン伴）に参加しました。

令和元年１２月から令和２年２月にかけて、御殿場看護学校の老年看護実習Ｉを１５名受け入れ、５日間の日程で認知症高齢者の援助の実際やアクティビティケアを実習されました。

## ４．一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー・講演活動等

### 4-1　セミナー・講演活動

健康長寿社会づくりのため、地域住民を対象とした健康管理や病気の予防についてのセミナーを主催したり、諸団体等が主催する講座に医師、看護師等を講師として派遣し、住民の医療や健康についての知識の向上に努めました。またＦＭ御殿場を通じて毎月１回テーマを決め、市民の健康増進と病気になった時の早期対応についてラジオ診察室として放送しました。身近な先生から放送を聞いて大変ためになったと好評です。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

医師　18 件（19 件）　看護師 13 件（3 件）リハビリ 3 件（1 件）

栄養士、社会福祉士 4 件（7 件）その他 5 件（12 件）　　合計 43 件（42 件）

### 4-2　健康キャンペーン

地域住民の健康増進を図ることを目的とし、当法人の看護師及び医師の協働によるキャンペーンを地域の特徴などを踏まえて実施しました。

相談コーナーの開設、血圧測定、血糖値チェック、血流測定、試供品の提供等病院内や市民交流センター等を会場とし無料で行なった。このほか、地域医療や生活習慣病に関する普及啓発も行いました。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

・富士小山病院・健康講座　　96 人（158 人）

5/19「人生の最終ｽﾃｯﾌﾟを考える～人生の最後をどのように締めくくれるか」

ちびっこナース撮影会 43 名、コンピューター歩行診断 34 名

・伊豆地区糖尿病予防キャンペーン派遣人員 5 名　参加者 183 名

・富士病院サーキットトレーニング 19 名

５．医療人材の養成支援

5-1　医療関係の実習生受入指導

病院では、大学や専門学校からの医学生、看護学生等の実習受け入れ、救急救命士の実習受け入れを行い医療に係る人材の育成を支援しています。

また、訪問看護ステーションでは、静岡県立静岡がんセンターと連携して認定看護師教育課程の緩和ケア実習指導を担当し、看護師の資質向上に貢献しています。

特に地元御殿場市医師会が運営する御殿場看護学校の運営等にかかわり、学校の講義においては当法人の医師、看護師等有資格者 30 人を派遣し、看護師養成について最大限の協力を行ないました。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

・昭和大学・東海大学他から医療関係学部の実習を受け入れた。

・御殿場看護学校

延べ実習人数 1053 人実習日数 272 日、非常勤講師 26 人、担当時間数 388 時間

・東部看護学校他専門学校への講師派遣

5-2　セミナー・講演活動

地域の医療従事者の資質向上やより高度な知識の習得のため、当法人、医師会や看護協会等の関係団体が主催する医療従事者を対象とする研修会に当法人の医師ほか医療従事者を講師として派遣した。また、公開講座として地域病院・医療機関を対象に公開講座を開催した。ホームページにも掲載し広く呼びかけた。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

医師による講演（医師会・薬剤師会など）合計 22 件（22 件）

看護師による講演 16 件、栄養士 1 件、その他 5 件

5-3　出前授業

・地域の中学校・高等学校に出向き、医療に関わる仕事の意義等について講義を行い、将来の看護師ほか医療従事者を目指す生徒が増えるよう啓発活動や命の大切さの教育をするなど出前講座を行う。医療従事者について、さらに興味を持った若者に対しては、「5-5　職場体験実習」に参加する道を開いている。

・今年度は、高校生に対して、救急活動に興味を持っていただく目的で、一次救命処置の講習会を開催しました。70 名の学生が受講し、先生方からも大変ためになったので継続的にお願いしたいとの評価でした。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

御殿場西高校 1 回　（2 回）　　参加人数 70 人（63 名）救急蘇生についての講演

5-4　職場体験実習

地域の中学校、高校、社会福祉人材センター等が行っている職場体験学習を積極的に受け入れました。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

高校数５校（7 校）　参加人数１８名（15 名）

中学校数６校（9 校）24 名（25 名）

他団体２団体２名（1 団体１名）

5-5　看護学生への奨学金の貸与

御殿場看護学校等の看護師養成施設学生を対象に、当法人の創案により地域の病院が連携して奨学金貸与を実施しました。病院部会に奨学金［毎月５万円］の返還は全額免除することとなっている。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

御殿場看護学校１年生６名、２年生５名、３年生８名、

奨学金総額 11,400,000 円

※富士病院は昨年９月１日看護師特定行為研修施設の指定を受け、平成 30 年 10 月１日より秋コースをスタートさせました。今年度は受講生の 10 名と増え、ＳＫビルを使っての学習と院内研修で、特定看護師として地域での活躍が期待されます。この特定看護師が医療行為を行えることで、医師の負担軽減やタイムリーな医療の提供ができることで、患者対応にスムーズに対応でき、医療安全にもつながります。

5-6　専門ナースの育成

看護の専門的知識、技能の習得と看護の質の向上を図るため、意欲のある看護師を受講させ、修学に必要な費用を支援しました。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

専門ナース研修　　１名 山梨県立大学（1 名 北里大学）

看護師特定行為研修　０名（1 名）

６．病院、施設等における各種相談助言

6-1　医療についての技術、各種の相談・助言

当法人の地域医療ネットワーク（他の病院、開業医、高齢者施設等を含むネットワーク）を活用して、患者と家族にとって最適な医療を受けられるように、住民を対象として相談助言を行なっている。医療機関や施設からは、摂食障害に関する相談、子供の発育・病気に関する相談、グループホーム・個人からは、認知症に関する相談、在宅支援ナースに関する相談、通院中の患者または家族からは就職相談・社会資源活用のための相談、退院後の生活相談・経済的な相談、患者の家族からは、排泄障害に関する相談等がある。基本的にはすべて無料で対応しました。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

医療相談室相談件数 14,807 件（14,448 件）

介護に関する相談件数 1,752 件（951 件）

医事課相談件数 61 件（50 件）

医療についての技術、各種の相談助言 4,934 件（3,252 件）

地域医療連携室経由相談件数 983 件（602 件）

他院より紹介 5,737 件（5,407 件）

他院への紹介 3,343 件（2,897 件）

6-2　生活困窮者等への支援

経済的な理由で必要な医療サービスを受ける機会が制限されることがないよう、生活困窮、心身障害、高齢等の患者に対して、病室料差額等の減額・免除の制度を実施する。

平成 12 年１月から子育て世代の負担軽減のため小児科の病室料は無料とした。

【令和元年度実績】（　　）は昨年度実績

| | | |
|---|---|---|
| 生活困窮者の室料等の減免件数 | 616 件 | （507 件） |
| 生活困窮者の室料等の金額 | 16,780,390 円 | （13,798,600 円） |
| 小児科室料の無料化 | 3,030,395 円 | （3,745,440 円） |
| 老人施設居室代の減免 | 2,820,395 円 | （2,639,547 円） |